

手遊び歌の使用法における一考察 — 幼児の発達段階をふまえて —

梅原 未里

はじめに

私は幼稚園教諭になることを目指している。幼稚園で扱われている「音楽」は、保育者のピアノ伴奏にあわせて歌うことや、体を音楽にあわせて動かすことによってリズム感や情操を身につける「リトミック教育」、歌に合わせて手や指を動かす「手遊び歌」などがある。幼児期は人格形成の場であり、基本的な習慣を身につける場である。「音楽」を聞いたり、歌ったりすることは、幼児の心を豊かに育む。『幼稚園教育要領』の【表現】の領域に記載されているように、「豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする」ために、音楽は保育において欠かせない。

私はその中でも「手遊び歌」に興味を持った。私は、中学生から高校生までの6年間、地域行事（駅伝大会や文化祭、凧あげ大会等）の運営をお手伝いするボランティアを行っていた。地域行事だけでなく、町内会ごとに行われていた小学生対象の「お楽しみ会」の司会や「キャンプ」の企画・運営なども行っていた。活動前の説明をするときやキャンプファイヤーで行う歌を教えるとき等、子どもたちに注目してもらいたいときは必ず「手遊び歌」を行っていた。「手遊び歌」を行うことで、子どもたちと私の間に親近感が生まれ、一緒に過ごす時間を楽しんでいた。「手遊び歌」は、一瞬のうちに子どもたちの気を惹くことができる。同時に場の雰囲気盛り上げ、次の活動を楽しむきっかけにもなる。ボランティアで「手遊び歌」を行うと、特に小学校低学年の児童が喜んでくれた。小学校低学年の児童は幼児と年齢が近いので、私がボランティアで身に付けた「手遊び歌」を幼稚園教諭として生かすことができるはずである。私が幼稚園教諭として働き始めた時、得意な指導領域として生かしたい。

「手遊び歌」はたくさんの人を自分の方に注目させることができ、幼児の手や指の動きの発達も促すことができるので保育者としては身につけておかなければならないものである。歌いながら手を動かすという1度に2つの動作をすることは、幼児にとってなかなか難しい。しかし、手遊びは道具も使わず、どこでもできる幼児の発達を促進する遊びであり、さらに保育者や両親が幼児と自然にコミュニケーションをとることのできる親近感がわく遊びでもある。

そこで、手遊び歌にはどのようなものがあり、どのような効果があるのか。そしてどのような手遊び歌をどのような場面で行うのが最も適しているのか調べ、自分が幼稚園教諭になったときに手遊び歌を効果的に保育に取り入れていくことができるようになりたい。幼稚園では満3歳～小学校就学前の子どもたちを保育するので、各発達段階や年齢に適した手遊び歌はどのようなものなのかということを中心とし、手遊び歌について調べてみる。そして、保育のどの場面でどんな手遊び歌を行うのが有効かを幼児の発達段階をふまえて分析してみる。

第1章 手遊び歌と幼児

1. 手遊び歌について

手遊び歌とは歌のリズムにあわせて、手や指を動かす遊びである。手遊び歌の歌は古来よりわが国に伝承されている「わらべうた」や、新たに創作され、発展してきているものがある。子どもたちが親しみやすい「わらべうた」に動作が加わったものが手遊び歌である。手遊び歌を行うことで子どもの手指や体の機能を高めることができるので、幼稚園や保育園など保育の場でよく用いられている。歌詞や旋律に合わせて手指、全身を動かすので、ものの形や大小などの空間的感觉を体験することや把握することができる。また、子どもたちの運動神経系の発達を促し、リズムカルな体の動きと共に創造性を養うものといえる。2～3歳の子どもは手を握ったり、広げたりするだけの動きから、指を1本だけたてる、2本の指でチョコキの形を作るというように少しずつ細かな指の動きができるようになる。手遊び歌を行うと、子どもは自然に大人の手指の動きを真似して動かすようになる。子どもの発達を促進するので、手遊び歌は重要な遊びのひとつといえる。

また、手遊び歌は子どもの豊かな情緒や表現力を養う効果があるともいわれている。手で作った形を動物や植物と見立てて遊ぶなど、手遊び歌を行うことで、子どもたちに新たな発想が生まれる。また友達と思いを共有しながら新たな遊びが生まれることもある。手遊び歌は幼児期の子どものにとって様々な機能の発達を促す効果を与えるので、保育の場では欠かすことのできない遊びのひとつといえる。

2. 手遊び歌の効果

前項の「1. 手遊び歌について」でも手遊び歌の効果について述べたが、ここでは具体的な効果としてどのようなものがあるかをまとめたいと思う。6項目にまとめ、幼児に与える効果がどのようなものなのか説明する。

効果1：脳のはたらき・手指の感覚の発達促進

手の動き、リズム感、反射機能などが発達し、脳の働きが活発になる。運動神経系の発達が促進される。

効果2：心（生きる力）の発達

ストーリー性のある歌詞や陽気な旋律に合わせて手指、全身を動かすことで豊かな創造性や情緒、表現力が養われる。

効果3：信頼関係の形成

手と手のふれあいから、両親、保育者、友達との信頼関係が豊かになる。

効果4：まねによる習慣性の発達

まねっこ期（2～3歳）の子どもは、大人のまねをしているだけで楽しくてたまらないものである。生活していくうえでの動作（例えば、数字を指で表す方法や座るときの姿勢など）が楽しみながら自然と身につく。

効果5：集中力の高揚促進

保育者の話に注目して欲しいときや一斉保育で数10分保育が続いている時など、どうしても子どもが活動に飽きてしまったり、騒がしくなるときに、子どもたちの気分をリフレッシュさせ、次に起こることに集中させることができる。

効果6：合図のはたらき

絵本を読む前や活動前に手遊びをすることで「今から始まるよ」と知らせることができる。また、活動の終了時に「これでおしまい」の意味を知らせることもできる。

手遊び歌を行うことで、以上のような効果が子どもたちに与えられると考えられる。私は実際に手遊び歌の効果を実習中に数多く体験した。毎日降園する前の帰りの集まりの際、絵本を読む時間があつた。絵本の読み聞かせをする前に手遊び歌「はじまるよ」を部分実習として4歳児クラスで行わせていただいた。この手遊び歌を実習中2回行わせていただいた。1度目は、初めての手遊び歌ということで、子どもたちは私のすることを見て、手振りを真似していた。2回目を1回目の3日後に行ってみた。私が「これから先生の真似をしてみてね。」と声かけをすると、子どもの数名が「はじまるよったらはじまるよ…」と手振りをあわせて歌い始めた。事前に、担任の先生に「はじまるよ」は今まで行ったことがないことを確認してあつた。1度しかやったことがないものを子供たちが覚えていることに私はまず驚いた。また、幼児が絵本を読む前という状況と私の真似をするという2点から、この手遊び歌を連想させていることに私は気づき、さらに驚いた。この手遊び歌と絵本の時間というものが、子どもの頭の中で結び付いていることが分かる。たった1度私が子どもの前で行っただけなのにも関わらず、子どもたちは生活の流れの一部として手遊び歌を捉えたということである。私は効果4(まねによる習慣性の発達)と効果6(合図のはたらき)を実際に体験したのである。何かをする前に手遊び歌を用いることで、子どもたちの中に習慣性が生まれた。そして手遊び歌を行うことで、子どもたちが〇〇をする時間ということを理解できるようになった。

このような効果があるということ保育者は理解しておく必要がある。

3. 手遊び歌の分類

手遊び歌の登場する物や歌詞の内容は多岐に渡る。手遊び歌の数は数百以上存在するので、種類分けや分類の仕方は様々な方法がある。本論においては、手遊び歌の効果をふまえ、場面やねらいをもって手遊び歌を保育に取り入れていくことができるよう、以下の5つに分類する。

(1) 物事の仕組みや性質を理解する手遊び歌

ジャンケンのように勝ち負けのルールがどのようなものかを理解することができる手遊び歌。また、自分の体の部分と名称を一致させ、自分の体やまわりを認識することができるようになるもの。体の部分を示す歌詞が織り込まれており、子供が遊びながら自然に体の部分と名称を一致させ、覚えることができるものである。

(2) 心を落ち着かせ、集中力を高める手遊び歌

だんだん声を小さくしていくものや、音程がなくリズムに集中して遊ぶとなえ歌などの手遊

び歌。何か次の活動を始める前に子どもを集中させるために行うものなど。

(3) 数の概念を理解する手遊び歌

歌の歌詞の中に数字が含まれ、指で1～5を数える形式のもの。この種類のものには、数が増えていくにつれて歌や動作が大きくなっていくものや最初に5つあったものが1つずつ減っていき、最後はなくなってしまうものなどがある。手遊び歌を行うことにより、自然と数が増えたり減ったりする概念が身に付くような手遊び歌である。

(4) 見立て遊び、表現する力を養う手遊び歌

見立て遊びとは「積み木を耳にあてて電話のつもり」や「両手をグーにして動かすと猫のつもり」など、何かを他のものに見立てて遊ぶことである。だいたい1歳前半から始まる。

この分類の手遊び歌は、ストーリー性があるものや子どもの反応によって、手振りが変化するもの、バージョンを子どもの要望や季節、状況にあわせて変えることができるものである。子どもの想像した世界を友達と一緒に共有することができるので、他の遊びへ発展していくきっかけとなる。

(5) 体を動かし、身体的発達を促す手遊び歌

手・指・腕だけでなく、全身を使って遊ぶもの。ひざの曲げ伸ばしやジャンプなどで体の重心が大きく動く場合が多いので、単なる遊びではなく、この遊びを行うことが運動となり、身体的発達を促している。

以上の分類でどのような手遊び歌があるのか題名を次に示す。それぞれの分類をさらに1人で行うもの、2人で相対して行うもの、2人以上の多数で行えるものの3つに分ける。

	性質・仕組み	落ち着き・集中	数の概念	見立て・表現力	身体的発達
1人	・「グーチョキパーで何作ろう」 ・「あたま・かた・ひざ・ボン」	・「ひげじいさん」 ・「はじまるよ」 ・「ろうそくボン」	・「パン屋さん」 ・「一本橋」 ・「1と1で」(忍者)	・「水中めがね」 ・「あおむしでたよ」 ・「かわいいひよこ」 ・「カレーライス」 ・「ポッポちゃん」 ・「小さな畑」 ・「3センチ」	・「大きな栗の木の 下で」 ・「大工のキッツキ さん」 ・「鬼のパンツ」
		・「ミッキーマウス」 ・「野ねずみ」 ・「1本指」		・「お弁当箱」	
2人	・「げんこつ山のたぬきさん」 ・「おちゃらか」	・「アルプス一万尺」		・「なべなべそこぬけ」	・「キャンプだほい」
多数	・「貨物列車」	・「手をつなごう」 ・「指貫き」		・「おちたおちた」 ・「おせんべ焼けたかな」 ・「あぶくたった」	

手遊び歌を以上のように分類した。この分類を行ったことでそれぞれの遊びには目的やねらいがあることが明確になった。全ての手遊び歌に共通して言えるのは、手指の動きの繊細さが獲得されることである。遊びに付随した手指の動きや歌のリズムに魅せられながら、子どもは無意識に手指の動かし方を学ぶだけでなく、物事の仕組みや数、まわりの出来事に興味をもつ

ことができる。2人で相対して行う遊びものと多数で行うものでは、スキンシップが計られるのはもちろんだが、子どもが集団になじむきっかけになる遊びでもある。

この分類を後に使用法を考えていく際に生かしていきたい。

4. 幼児の発達段階

幼稚園に入園することができるのは、満3歳～小学校就学前の子どもである。この年齢の子どもたちは、発達心理学的には幼児期前期から後期という。幼児期の身体的成長や言葉の発達、知的発達はとても目まぐるしい。3歳児、4歳児、5歳児の特徴はそれぞれ異なる。ここでは、各年齢によってどのような発達の特徴があるのか、幼児期から児童期にかけてどのような成長を遂げていくのかを検討してみる。また、幼児の〈言葉〉や〈数の概念〉の発達については手遊び歌を行う際に考慮しなければならない。幼児期の子どもの発達は1年ごとに大きな差がある。そこで、年齢に適した手遊び歌を考えるために必要な、3歳、4歳、5歳の各年齢の〈言葉〉、〈数の概念〉の発達の様子も取り上げる。

1. 3歳

幼稚園入園前にある程度集団生活を経験している子もいるが、多くの子は初めて集団生活を経験する。幼稚園の環境内の人々や事物などの様々なものと出会う時期であり、家庭以外の人と関わる新しい環境である。2年保育の場合、4歳児になって新しい環境を経験する子もいる。兄弟がいない場合は、幼稚園で初めて同年代の幼児と接する機会となる。幼稚園では様々なルールに沿って生活することや自分以外の他者の存在に気づく場である。幼稚園入園前に同年代の子どもと関わったことがないとどう過ごしてよいか分からず、ぼう然と過ごす子もいるが、保育者やまわりの子どもたちの援助を受けて次第に幼稚園という環境に慣れ、楽しみを発見していくようになる。

〈言葉〉多語文や従属文が言えるようになる。ある程度文章構成をした話ができるようになる。〈数の概念〉だいたい「10」まで順序よく数えられるようになる。3歳後半になると指でものを指しながら数を数えることができるようになってくる。物と数を1対1で対応させながら数を数えていく。

2. 4歳

幼稚園生活に慣れ、遊び方が活発になり、自己を発揮する時期である。友達とともに身近な物を使ってやり取りをしたり、何かおもしろいものを作り、活動を進めたりする。自分のやりたいことや遊びがはっきりし、それを実現させるために工夫するようになる。

〈言葉〉話し言葉が一応完成する。話すことに興味が高まり、一時的に非常におしゃべりになる時期（多弁期）がある。

〈数の概念〉だいたい「20」まで順序よく数えられるようになる。数えられる範囲が「20」を超える子もいる。数えていく時に数の順序も理解して覚えていく。

3. 5歳

一緒に物事に関わり、遊んでいく中で幼児同士の人間関係が深まっていく時期である。大き

な目標に向けて友達と協力していくことができるようになり、同じ遊びを期間が空いても継続してできるようになる。小学校以降の生活に生かすことのできる経験も多く、保育者が幼稚園での生活を支えることを通して、その後の思考や発達につながるような経験をする。

<言葉>言葉は、コミュニケーションの道具だけでなく、思考のための道具として働き始める。それにより、言葉を使って考えたり、想像したりできるようになる。

<数の概念>数えられる数の範囲が急速に広がっていく。1対1で数と物を対応させなくても数えることができるようになる。そのため、指でものを指しながら数える様子は減少する。数を数えていき、最後に言った数詞が全体の数を表すということを理解できるようになるのが5歳以降である。

第2章 アンケート調査とその分析

実際の保育の場ではどのように手遊び歌が取り扱われているのだろうか。また、年齢別どのような手遊び歌を保育者は行っているのだろうか。子どもの年齢に適した種類の手遊び歌と手遊び歌を行うために適している使用場面を考えていくために、アンケート調査をお願いすることにした。アンケートに協力していただいたのは、以下の2園でクラスをもつ先生方である。1つは、教育実習でお世話になった静岡県富士市立元吉原幼稚園であり、もう1つは私が大学3年の時から現在も預かり保育のお手伝いをさせていただいている世田谷区にある常徳幼稚園である。元吉原幼稚園において2名、常徳幼稚園においては32名、あわせて34名の先生方にご協力いただいた。

アンケート内容は以下の通りである。

「手遊び歌」に関するアンケート

- Q1. 何歳児クラスを担当していますか。
3歳児クラス・4歳児クラス・5歳児クラス
- Q2. 保育に手遊び歌をどの程度取り入れていますか。
(1) 毎日 (2) 週2～3日 (3) 週1日
- Q3. Q2で「(1) 毎日」を選択した方に伺います。1日に何回程度手遊び歌を行いますか。
(1) 1回 (2) 2回 (3) 3回 (4) 4回 (5) 5回以上
- Q4. どのような時、場面で手遊び歌を行いますか。(複数回答可)
(1) 朝のお集まりのとき (2) 食事をする前 (3) 食事をした後 (4) 活動時 (5) 降園時
(6) その他 ()
- Q5. Q4で答えた各場面で何の手遊び歌を行っていますか。
回答例：食事をする前→ポッポちゃん ()
- Q6. Q4で答えた各場面以外で手遊び歌をどのような時に使いますか。また具体的に何の手遊び歌を使いますか。()
- Q7. なぜ手遊び歌を使用するのですか。()
- Q8. 手遊び歌をしている時の子どもたちの様子はどうですか。また、手遊び歌で子どもたちの様子は行う前とどのように変化しますか。()
- ご意見や感想などがございましたら下記にお願い致します。 以上
アンケートにご協力いただきましてありがとうございます。

アンケートの具体的な集計結果は資料の164～167ページに添付した。

以下、アンケートの集計結果をグラフにまとめ、実際の保育現場では手遊び歌がどのように扱われているのかを検証し、どのような場面でのような手遊び歌を行うのが子どもの発達にとって効果的で、より良い保育を行うことができるのかを考えてみる。

まず、アンケートのQ2「保育に手遊び歌をどの程度取り入れていますか」という項目から得た調査結果をグラフにまとめると図1の様になる。

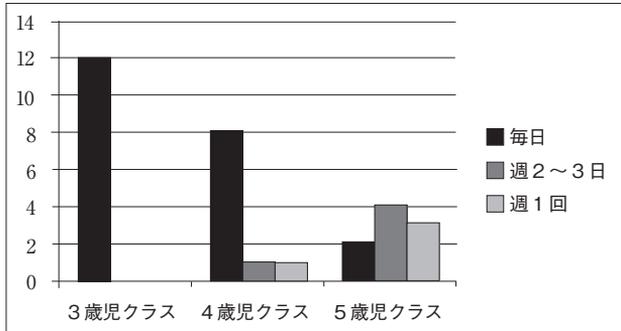


図1 Q2 保育にどの程度手遊び歌を取り入れていますか

1番年少である3歳児クラスでは、保育者全員が毎日手遊び歌を保育に取り入れているのに対し、4歳児クラスでは週に2～3回、週1回だけ手遊び歌を取り入れている保育者もいる。だが、毎日手遊び歌を行っている保育者が大半である。5歳児クラスで1番割合が多いのは、週2～3回

と答えた保育者である。次いで週1回が続いている。この結果から、子どもの年齢が高くなるにつれて手遊び歌を保育に取り入れる回数は減少していることが分かる。

では次に、1日の中で手遊び歌を何回取り入れているのだろうか。アンケートQ3で得た回答を下記のグラフ図2にまとめる。

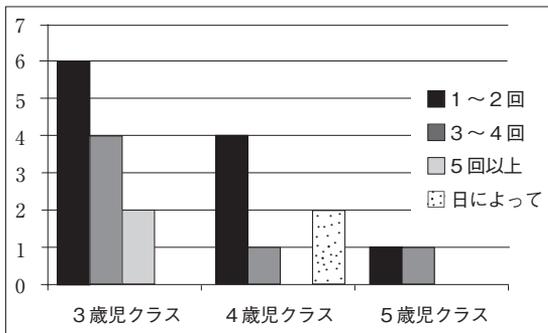


図2 Q3 1日に何回手遊び歌を行いますか
(手遊び歌を毎日取り入れている保育者に限る)

先の質問で毎日取り入れていると答えた保育者が1番多かった3歳児クラスで1日に行う手遊び歌の回数は、1～2回と答えた人が最も多かった。4歳児クラスでも同様に1～2回行っている保育者の割合が多い。1日に5回以上行う保育者の割合は少なく、どのクラスでも少ないことが分かる。4歳児クラスにおいて「日によって」という答えも見られた。1日の保育内容や行事等によって行う回数

が変動するということであろう。毎日行う手遊び歌であるが、1日の中で保育に取り入れている回数としては、1～2回程度が一般的ということが分かった。

では、保育者は1日の保育の中で1～2回行う手遊び歌をどのような時、どのような場面でやっているのだろうか。アンケートQ4で得た回答を下記のグラフ図3にまとめる。

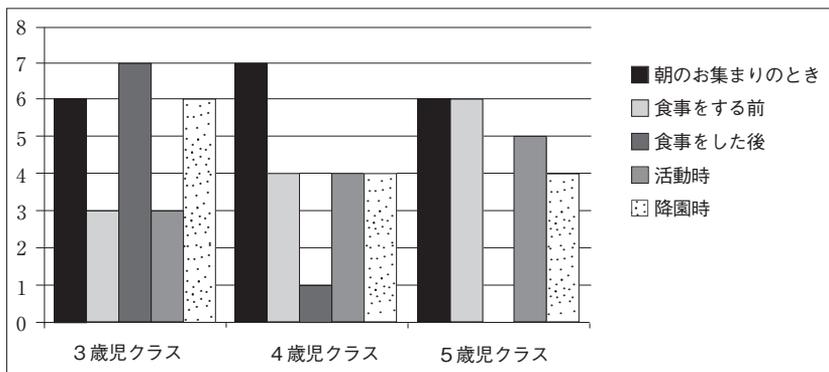


図3 Q4 どのような時、場面で手遊び歌を行いますか（複数回答有）

3歳児クラスで最も多いのは「食事をした後」である。「食事をした後」に手遊び歌を行っている保育者数について見てみると、4歳児クラスでは1名、5歳児クラスでは0名である。なぜ3歳児クラスでは「食事をした後」に手遊び歌を行う保育者が多いのであろうか。3歳児は自分の目の前にあるものに1番興味を持つ。お昼の時間になれば、保育者の呼びかけで自然とお弁当や給食に興味に向く。しかし、3歳児は自分が食べ終わると保育室にあるおもちゃに興味に移り、席を離れ、友達が食べ終わるのを待つことができない子が多い。そのため、食事の時間が終わったということを知らせるために手遊び歌を用いるのだと思われる。「ごちそうさまでした」の挨拶として、手遊び歌を全員で行うまでは、自分が食べ終わっても席に座って友達が食べ終わるのを待つという習慣をつけることができる。そのため、「食事をした後」に手遊び歌を行う保育者が多いことが分かる。

続いて、3歳児クラスでは「朝のお集まりのとき」と「降園時」に手遊び歌を行う保育者が多い。「朝のお集まりのとき」に手遊び歌を行う保育者は3歳児クラスだけでなく、4歳児クラス、5歳児クラスでも多い。幼稚園によって異なるが、通園コースや通園バス、家庭の都合によって幼児の登園時間は一定ではない。そのため、朝早く着いた幼児は、友達が来るまで園内で自由に遊んでいることが多いようだ。クラスの子どもがそろい、身支度を終えると、全員そろって朝の挨拶や今日1日の話をするために、保育者は全員一緒になって歌を歌ったり、手遊び歌を行うのである。ゆえに、どのクラスでも「朝のお集まりのとき」に手遊び歌を行う保育者が多いのである。

4歳児クラス、5歳児クラスでは「食事をした後」以外はあまり差がなく、どの場面でも手遊び歌を行っている。私が設定した回答以外に「その他」であがった回答をグラフにまとめ(図4)、他にはどのような時、場面でやっているのか年齢クラスごとに考える。

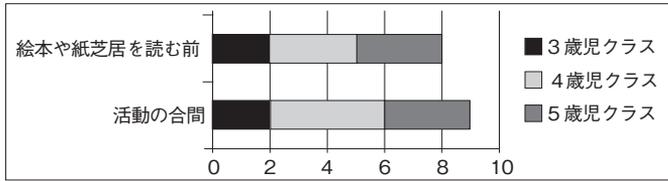


図4 Q4の回答以外でどのような時、場面で手遊び歌を行っていますか

Q4で私が設定した5つの回答以外に、3・4・5歳児クラス全てであった回答が「絵本や紙芝居を読む前」、「活動の合間」である。この2つの回答は、ど

の年齢クラスでも回答数に差がない（2～4名）。「絵本や紙芝居を読む前」と「活動の合間」は年齢に関係なく手遊び歌が用いられているということが分かる。

続いて、アンケートQ5の「Q4で答えた各場面（「朝のお集まりのとき」「食事をする前」「食事をした後」「活動時」「降園時）」で何の手遊び歌を行っているか」という質問の回答であった手遊び歌を第1章第3節「手遊び歌の分類」（P8～10）に従って分類する。分類分けをすることによって、同じ時や場面でも幼児の年齢が異なれば、異なる分類の手遊び歌を取り扱っていることを発見したり、何か保育者が選択する手遊び歌の傾向について気づくことができると見込んで分類を行う。手遊び歌の題名の右かっこ内は各クラスの年齢を示す。（少→3歳児クラス、中→4歳児クラス、長→5歳児クラス）

【朝のお集まりのとき】

性質・仕組み	「頭・肩・ひざ・ボン（中）」「おはようの歌（長）」
落ち着き・集中	「アンパンマン（中）」「ひげじいさん（長）」
数の概念	（なし）
見立て・表現力	「山小屋一軒（少）」「卵をボン（中）」「青虫でたよ（中）」 「はちべえさんとじゅうべえさん（中）」
身体的発達	（なし）

【食事をする前】

性質・仕組み	（なし）
落ち着き・集中	「はじまるよ（中）」
数の概念	（なし）
見立て・表現力	「カレーライス（少）」「かわいいひよこ（長）」 「ポッポちゃん（長）」
身体的発達	（なし）

「お弁当箱（少）（中）」

【食事をした後】

性質・仕組み	「1本指（少）」
落ち着き・集中	
数の概念	
見立て・表現力	（なし）
身体的発達	（なし）

【活動時】

性質・仕組み	(なし)
落ち着き・集中	「アンパンマン (少)」
数の概念	「1と1で (中)」 「パン屋さん (中)」 } 「野ねずみ (中)」
見立て・表現力	「片付けマン (少)」 「ウルトラマンの歌 (少)」 「3匹の子ぶた (少)」 「水中めがね (少)」 「お寺のおしょうさん (中)」
身体的発達	(なし)

【降園時】

性質・仕組み	「たいやき君とたこやき君 (長)」 「奈良の大仏さん (長)」
落ち着き・集中	「はじまるよ (中)」
数の概念	「三ツ矢サイダー (中)」
見立て・表現力	「大阪の歌 (中)」 「小さな畑 (長)」
身体的発達	(なし)

アンケートQ4の「(6) その他」において、3・4・5歳児クラス全てであがった「絵本や紙芝居を読む前」、「活動の合間」で何の手遊び歌を行っているかという回答も得ることができたので、分類する。

【絵本や紙芝居を読む前】

性質・仕組み	「グーチョキパーで何作ろう (中)」
落ち着き・集中	「はじまるよ (中) (長)」 「ろうそくボン (長)」
数の概念	「1と1で (中)」 「忍者 (長)」 } 「ミッキーマウス (中)」
見立て・表現力	(なし)
身体的発達	(なし)

【活動の合間】

性質・仕組み	(なし)
落ち着き・集中	(なし)
数の概念	「1と1で (中)」 「パン屋さん (長)」 「一本橋 (長)」
見立て・表現力	「お寺のおしょうさん (中)」 「大きな庭 (中)」 「おちたおちた (中)」
身体的発達	(なし)

まず【朝集まる前】では、数の概念を理解する手遊び歌と身体的発達を促す手遊び歌は行われていない。各年齢で物事の性質や仕組みを理解する手遊び歌、心を落ち着かせ、集中力を高める手遊び歌、見立て遊び・表現する力を養う手遊び歌が行われている。【朝集まる前】においては登園してすぐに数を考えたり、体を動かすのではなく、幼稚園の1日の始まりを子どもが感じることができるような楽しい手遊び歌を行っている。これは、どの年齢においても同じである。

【食事をする前】は、心を落ち着かせ、集中力を高める手遊び歌と見立て遊び・表現力を養う手遊び歌が行われている。「お弁当箱」は見立て遊び・表現力を養うだけでなく、数の概念を理解する効果も含まれた手遊び歌である。どのような手遊び歌が行われているかという、見立て・表現力を養う手遊び歌に分類されたものは、全て食べることに関する歌詞の手遊び歌である。食事をする前は食べることに意識を集中させることが、保育者の1番のねらいなの

であろう。落ち着きや集中力を高める手遊び歌に分類された「はじまるよ」は食べることに関する歌詞ではないが、次に何かが始まることを知らせる歌詞である。食べるということ、食事の時間が始まるということを理解させることができる手遊び歌を行っていることが分かった。年齢別に考えると、5歳児クラスでは、「かわいいひよこ」、「ポッポちゃん」が行われている。食べることと動物が関係した歌詞の手遊び歌である。3、4歳児クラスでは、「お弁当箱」や「カレーライス」のように子どもが食べるという主観的なものである。5歳児クラスになると「ポッポちゃん」のように動物が食べるという他者の行動を表すものを行うようになる。「かわいいひよこ」は、ひよこが卵から生まれ、最終的に焼き鳥にして私たちが食べるという歌詞の手遊び歌である。生き物を食べるという食育の要素や生命の尊さに子どもが気づく要素が含まれた歌詞だ。5歳児の発達から考えると、自分以外の存在を理解し、物事を広く見ることができるようになるからこそ「かわいいひよこ」のような歌詞の手遊び歌ができるのだと思う。保育者は、幼児の発達を理解して手遊び歌を選択しているということが分かった。

【食事をした後】では、3歳児クラスの1名の保育者からしか回答を得ることができなかったが、「1本指」という手遊び歌を行っていることが分かった。この手遊び歌は、最初は両手の指1本のみで拍手をし、次に指2本ずつで拍手、その次は指3本ずつでというように拍手する指の本数を増やしていく。最後に5本の指全部で拍手をすると大きな音となり、音の変化を楽しむものである。先ほどQ4の結果からの得た私の考察で、【食事をしたあと】に手遊び歌を3歳児クラスで行う保育者が多いのは、子どもに食事の時間が終わったということを知らせるためと述べた。「1本指」の分類は、物事の仕組みや性質を理解する手遊び歌、心を落ち着かせ、集中力を高める手遊び歌、数の概念を理解する手遊び歌の3つに当てはまると私は考えた。手遊び歌「1本指」は、どうして1本指よりも5本指で拍手する方が大きな音が鳴るのかという仕組みを自然と子どもが理解することができる。また指の本数を増やしていくことで数が増えるという概念も理解することができる。また、拍手をすることによって、自分から生まれる音を聞くことに集中するので、保育者や活動そのものに集中することができる。以上3つの効果が「1本指」には含まれていると考えられる。手遊び歌を全員で行うまでは、自分が食べ終わっても席に座って友達が食べ終わるのを待つことを3歳児に理解させるために、「1本指」は適していると思う。

【活動時】は3歳児クラス、4歳児クラス共通で心を落ち着かせ、集中力を高める手遊び歌と見立て、表現する力を養う手遊び歌を行っている。4歳児クラス、5歳児クラスに共通なのは、心を落ち着かせ、集中力を高める手遊び歌と数の概念を理解する手遊び歌である。制作活動や園庭に出る時など、何か次の活動に移る際に幼児の集中を高めたり、幼児の意識を保育者の集める必要がある。そのためには心を落ち着かせ、集中力を高める手遊び歌やストーリー性がある手遊び歌で幼児が楽しい気分になり、期待して保育者に意識を向ける見立て、表現する力を養う手遊び歌が適しているといえる。5歳児になると、数えられる数の範囲が急速に広がる。数への興味も広がり、日常生活でも自然に数を意識することができるので、手遊び歌でも

数の概念を理解する手遊び歌を行うことができるということだ。

【降園時】においては体を動かし、身体的発達を促す手遊び歌以外、全ての分類の手遊び歌が行われている。アンケートQ4の集計結果では、3歳児クラスにおいても降園時に手遊び歌を行う保育者は多数いたが、Q5で実際にどのような手遊び歌を行っているかという問いには回答が得られなかった。ゆえに【降園時】においては3歳児クラスがどのような手遊び歌を行っているかという傾向をまとめることができなかった。ここでは、4歳児クラスと5歳児クラスで行われている手遊び歌について考えていく。4歳児クラスと5歳児クラスで行われている手遊び歌の違いは、何だろうか。4歳児クラス、5歳児クラスと共通して幼児が活気づき、動作の大きな手遊び歌が行われている。5歳児クラスで行われている手遊び歌は「小さな畑」、「奈良の大仏さん」、「たいやき君とたこやき君」である。この3つは歌詞が1番だけでなく、2番や3番まで続いている。メロディーを繰り返して歌うが、歌詞や手振りが変化していく手遊び歌である。「小さな畑」は3番までの構成になっており、1番では小さな畑、2番では中くらいの畑、3番では大きな畑と畑の大きさが変化していく。「奈良の大仏さん」では、5番までの構成になっており、すずめの止まる位置が頭、鼻、指、へそ、尻と変化する。体の各部を山やトンネル、池などに例えて変化を楽しむことができる手遊び歌だ。「たいやき君とたこやき君」は右手でたいやき君、左手でたこやき君を表し、競争をする手遊び歌である。2番までの構成になっており、1番ではたいやき君の勝ち、2番ではたこやき君の勝ちとなる。この3つの手遊び歌を行うとき、幼児は歌詞や動作の変化を楽しみながら、頭の中で勝ち負けを考えたり、体の各部と比喩表現を楽しむ。これは3、4歳児には難しいことだ。5歳児だからこそ、歌を歌いながら、手を動かし、頭の中で考えることができる。降園時、幼児が幼稚園での1日を楽しい気分で終えるために、年齢にあわせて楽しむことができる手遊び歌を選択して行う必要がある事が分かった。

【絵本や紙芝居を読む前】は3歳児クラスでは「ミッキーマウス」が行われている。この手遊び歌は2種類の方法がある。1つの方法は、数字の1～5を指で表す動きで、1でピノキオ、2でドナルドダックというように、ディズニーキャラクターを指で表していく。1番最後に両手を5にして頭の上にあてるとミッキーマウスになる。指で作った数字をキャラクターに見立てるので、子どもたちは楽しみながら、数字を理解することができる。もう1つの方法は「ひげじいさん」の替え歌である。「ひげじいさん」と同様に、トントントントンと両手をグーにして叩いたあと、ミッキーマウスやミニーマウスなどのキャラクターを手で表す。最後は「ひげじいさん」と同じで手を上にあげ、キラキラと手を星に見立てながら降ろし、自然と手がひげの上になり、良い姿勢を作り、保育者に注目することができる。やり方によって、数の概念を理解するものか、集中力を高めるものかに変わってくる。子どもが好きなキャラクターを手遊び歌で行うと、子どもは興味を持つのが早く、保育者に意識を集めることができる。また、お話を聞く時の姿勢を楽しみながら身につけることができるので、「ミッキーマウス」は3歳児に適している。4歳児クラスでは様々な分類の手遊び歌が行われている。4歳児は幼稚園生

活に慣れ、遊び方が活発になるので興味も広がる時期である。【絵本や紙芝居を読む前】は、これから読むお話に関連を持つ手遊び歌を選択すると、子どもが自然とお話の世界に入っていくことができる。4歳児の興味やお話の内容をふまえた上で手遊び歌を選択すると、選択の幅が広くなり、様々な分類の手遊び歌になるのであろう。「グーチョキパーで」は最後に絵本に登場する動物や植物を表すことができるので、様々なお話に適応させることができる。「1と1で」と「はじまるよ」は最後にちょうちょになって飛んで行ったり、手をひざにおいてお話を聞く体勢を作ることができる手遊び歌である。この様に子どもの興味に合わせてお話に移りやすい手遊び歌を選択すべきである。5歳児クラスで行われている「忍者」は「1と1で」の替え歌である。4歳児クラスで行っていた手遊び歌で親しみのあるメロディーを違う歌詞、手振りに変えることですぐに取り組むことができ、子どもの興味もわきやすい。「ろうそくポン」は最後に手がひざにくるようになっていて、4歳児クラスで行われていた「はじまるよ」と同様である。「はじまるよ」よりも歌詞が短いので、短時間で集中させ、何か他のことをやっていた意識からお話へ子どもの気持ちを切り替えることができる。3・4・5歳児クラス全体を通して【絵本や紙芝居を読む前】は、最後に自然に手がひざにくる手遊び歌を行っているクラスが多いことが分かった。

【活動の合間】においては、【降園時】と同様に3歳児クラスでも行われているが、実際に行われている手遊び歌の回答が得られなかった。そのため、4歳児クラスと5歳児クラスにおいて考察していく。4歳児クラス、5歳児クラスともに数の概念を理解する手遊び歌と見立て・表現する力を養う手遊び歌が行われている。【活動の合間】では、先に準備が終わった子どもが他の友達の準備が終わるまでの時間を楽しく過ごすことができるようにするために手遊び歌を行っている。そのため、準備が終わり、途中から手遊び歌に参加する子どもも出てくる。途中から参加する子どもも入りやすいものが望ましい。「1と1で」、「パン屋さん」、「一本橋」は1～5の数字に関係している。各数字の部分で切れ目となるので、子どもが途中からでも参加しやすい手遊び歌である。「お寺のおしょうさん」、「おちたおちた」は繰り返すことのできる手遊び歌なので、全員がそろうまで何度も繰り返すことができる。全員がそろうまでにどのくらい時間がかかるのかを見極め、手遊び歌を選択する必要がある。また、今まで他の場面では出てこなかった複数人で行う「おちたおちた」がアンケートであがってきている。保育者にとってこの手遊び歌は、何が落ちたのか子どもの意見を取り入れながら進行することができる。かつ、子どもも友達の動作と自分の動作の違いに気づくことができる。動作もダイナミックなので、活動の合間の気分転換としても楽しむこともできる。他者の動きが見え、自分の意見を考えながら活動することができるようになってくる5歳児だからこそ、行うことのできる手遊び歌である。

ここまでで幼稚園生活の各場面で何の手遊び歌を行っているか、手遊び歌の分類(P.9)に従って分類し、なぜこの場面でこの分類の手遊び歌を行うのか、各年齢における傾向はどうだろうかを考えた。次に、アンケートQ6「Q4で答えた各場面以外で手遊び歌をどのよう

な時に使いますか。また具体的に何の手遊び歌を使いますか。」について分析する。この質問で得られた回答は、Q 4、Q 5 のその他で得た回答と似ている。手遊び歌を行う場面は全員がそろりまでの間や集中させたいときという答えがどの年齢でも多かった。異なっていた点は、5 歳児クラスで得られた「お楽しみ【お遊戯会などで発表するとき】」という回答である。5 歳児になると、手遊び歌を他のクラスの幼児や異年齢児に発表するようになることが分かった。幼稚園の行事によって様々だが、毎月行う誕生会で披露したりするようである。「鬼のパンツ」は手遊び歌の分類では、体を動かし、身体的発達を促す手遊び歌である。発表の場では、全身に振り付けがあるようなものが適している。日常生活で何度も繰り返し行うことで手遊び歌が上手になり、他の園児の前で発表することにより幼児に自信がつく。私が実習させていただいた幼稚園の 5 歳児クラスでも誕生会の際に、手遊び歌「3センチ」を披露していた。発表のやり方としては、保育者はピアノ伴奏を弾き、手遊び歌は子どもたちだけで行っていた。普段の保育中でも「今日は〇〇君が先生になってみんなの前でやってみよう。」というように、クラス内で前に立って手遊び歌を行っていた。アンケートにも「保育者が行うのではなく、子どもにお手本をやってもらう。」という回答があった。5 歳児クラスになると、保育者なしで子どもたちだけで手遊び歌を行うという方法もあることが分かった。

アンケート Q 7 「なぜ手遊び歌を使用するのですか。」という問いに対して得られた回答をグラフにまとめる。回答が多かった回答と各年齢クラスで共通していた回答のみグラフに取り上げる。

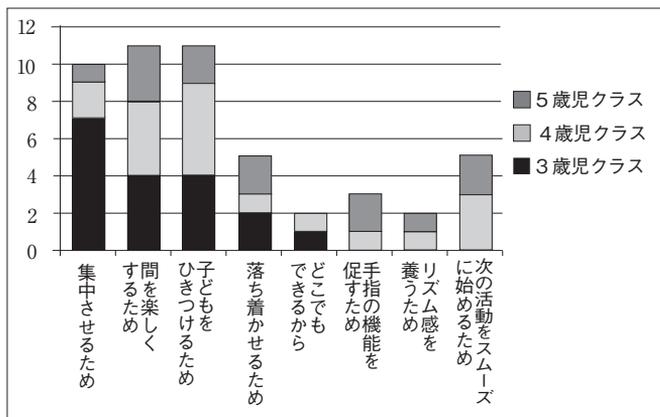


図5 Q 7 「なぜ手遊び歌を使用するのですか」

図5のグラフを見ると、「集中させるため」、「間を楽しむため」、「子どもをひきつけるため」が圧倒的に多い。どの年齢クラスの保育者でも、手遊び歌を使用する理由はこの3点であることが分かる。子どもを活動に集中させたり、園生活を楽しんだり、ひきつけて大事な話を聞く姿勢を

作ることは保育者の技量として必須である。ゆえに、幼稚園教諭としてクラスを運営していく際には、やはり手遊び歌をうまく指導できる必要がある。グラフにまとめなかった回答で、「バージョンを変えて繰り返し遊びができるから」、「歌が簡単なので年齢が低い子どもでもすぐに

覚え、歌う楽しさを感じるきっかけになるから」、「みんなと同じことをして楽しむという場を共有するため」というものもあった。手遊び歌を保育者が使用する理由は、手遊び歌を行う利点がとてもあるからということが分かった。

保育者にとって手遊び歌が保育に重要であることは分かったが、手遊び歌を行っている幼児たちはどうなのだろうか。保育者に尋ねてみた。アンケートQ8「手遊び歌をしている時の子どもたちの様子はどうですか。また、手遊び歌をすることで子どもたちの様子は行なう前とどのように変化しますか。」の回答をグラフにまとめ、手遊び歌を行っている時の幼児がどのような様子なのか調べる。

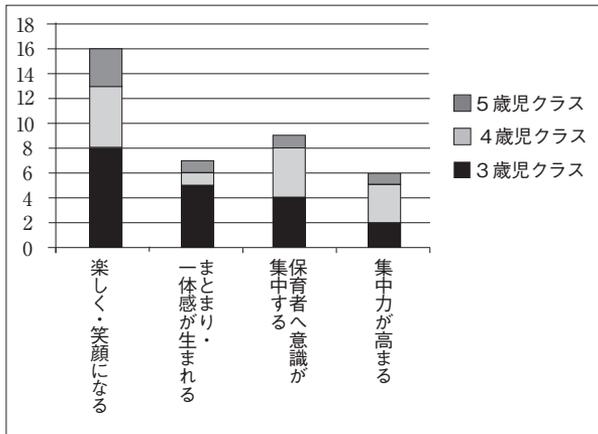
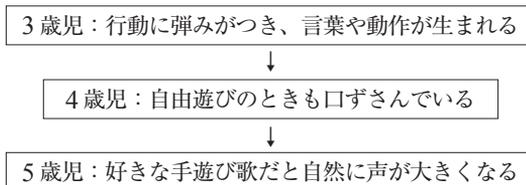


図6 Q8 手遊び歌を行うと子どもがどのように変化するか

3・4・5歳児クラスで共通していた回答を図6のグラフにまとめた。1番多かったのは「楽しくなる」、「笑顔になる」を合わせたものである。(内容が同一なので、ひとつにまとめた。)手遊び歌を行う前よりも子どもたちの雰囲気は楽しく、活気づくことが分かる。次に回答が多かったのが、「保育者に意識が集中する」である。Q7の「なぜ手遊び歌を使用するのか」の回答と関連している。やはり、

手遊び歌を行うと子どもの意識が保育者に集中するのを保育者自身が感じるから手遊び歌を行っているのである。次に多かったのが「まとまり・一体感が生まれる」である。手遊び歌を行うことで、クラス子どもたちに一体感が生まれるようだ。この回答は特に3歳児クラスに多い。初めての集団生活を体験する3歳児にとって、手遊び歌は全員が興味を持ち、取り組むことのできる遊びであることが分かった。

次に、言葉の発達段階を年齢ごとに追いながら回答をまとめる。



回答を年齢ごとに追っていくと、話し言葉がまだ完成する前の3歳児は、手遊び歌を行うことで自ら言葉を発する弾みがつく効果があるようだ。4歳児になると多弁期に入り、ひとり言も多くなる。手遊び歌を覚え、1人でも口ずさむようになる。5歳児になると、言葉がコミュニケーションの道具だけでなく、思考のための道具となる。好きな手遊び歌は自然に歌声が大きくなるという行動は、幼児の頭の中で想像が膨らみ、気に入ったもの、そうでないものの判断ができるようになってきていることの表れだといえる。手遊び歌を行うことによって、幼児の様子にも発達段階をふまえた変化が表れてくることがQ8の回答から確認できた。

まとめ

ここまで、アンケートの集計結果から幼児の各年齢においてどのような場面で、どのような手遊び歌を行う事が適しているかを分析してきた。手遊び歌を行う頻度は3歳児クラスが一番多く、4歳児、5歳児に成長していくごとに使用する頻度が減っていく。手遊び歌を行うことで幼稚園生活にまとまりを生み出し、友達と一緒に楽しむという場を共有するきっかけを作る。5歳児になると小学校へ就学することを考え、全員がそろそろまでの時間も手遊び歌を使用せずに待つことができるようになることも分かった。近年、小1プロブレムが問題になっている。小学校に入学し、子どもが授業中座っていることができるようにするためには、幼稚園での習慣づけが必要となってくる。5歳児クラスにおいては手遊び歌を使用する場面を十分に考えて行わなければならない。生活の中で手遊び歌を使用するのは、何か今までしていた活動と異なる活動をする時と活動の合間ということも分かった。活動にメリハリをつけ、幼児の気分を盛り上げ、集中させることができるようにするために手遊び歌はかかせない保育内容である。ただ、アンケートのQ8【その他の回答】で「指使いが難しいとついてこれない子もいる」、「やりすぎると飽きる」、「子どもの様子は様々。楽しんでいる子もいれば、興味を持たない子もいる」という回答があった。幼児の年齢に適したものや場面に適した分類の手遊び歌を保育者は選択していかなければならない。具体的には同じ手遊び歌でも年齢を重ねるごとにバージョンを変え、子どもの様子を確認しながら手指の動作を難しくするなどの工夫が必要だ。また、繰り返すごとにテンポを変えたりすることによって同じ手遊び歌でも雰囲気を変えることで幼児の興味をひきつけることができる。手遊び歌になかなか興味を示さない子に対しては、その子が好きなキャラクターの手遊び歌に取り組んでみると「真似してみようかな」という気持ちのきっかけ作りとなる。手遊び歌に興味を示さなかった子の仲良しの友達が楽しんで手遊び歌を行っている姿を見ることで、自然に手が動くようになり、楽しむようになることもある。保育者は幼児にあわせて手遊び歌を選択していくために、幼児の発達段階をふまえ、それぞれの状況にあう手遊び歌を数多く覚え、頭の中で整理しておく必要がある。

私が幼稚園教諭になったとき、様々な場面で適した手遊び歌を行うことができるようにするためには、まずたくさんの手遊び歌を覚える必要があることが分かった。また3～5歳児は各年齢で発達がとても異なるので、発達段階をよく理解し、手遊び歌を選択しなければならな

いことも分かった。3、4歳児クラスでは毎日、5歳児クラスでも1週間に2～3回手遊び歌を行うので、手遊び歌1つ1つに変化を持たせる工夫ができるようになりたい。3歳児に対して手遊び歌を行う際には、幼児が言葉や動きを自ら発するきっかけづくりができるようにしていきたい。この卒業論文で調べた手遊び歌を自分の保育で活用し、年齢、場面、子どもの状況に合わせて生かしていきたい。

参考文献

- 「よくわかる発達心理学」無藤隆・岡本裕子・大坪治彦編、ミネルヴァ書房（2004年9月発行）
 「たのしい手あそびうた」阿部恵編著、ナツメ社（2009年5月発行）
 「幼児期から児童期への教育」国立教育政策研究所教育課程研究センター（平成17年2月発行）
 「幼稚園教育要領 文部科学省第26号」（平成20年3月28日告示 平成21年4月1日施行）
 「増補・改訂版 年齢別保育資料④ 3歳児の保育資料 12か月のあそび百科」阿部恵編著、ひかりのくに（2008年2月発行）
 「増補・改訂版 年齢別保育資料⑤ 4歳児の保育資料 12か月のあそび百科」阿部恵編著、ひかりのくに（2008年2月発行）
 「増補・改訂版 年齢別保育資料⑥ 5歳児の保育資料 12か月のあそび百科」阿部恵編著、ひかりのくに（2008年2月発行）
 てあそびドットコム <http://www.teasobi.com/>
 保育CAN <http://www.hoikucan.jp/index.html>

<アンケート結果>

Q1：何歳児クラスを担当していますか。

3歳児クラス(12名) 4歳児クラス(10名) 5歳児クラス(10名)

Q2：保育に手遊び歌をどの程度取り入れていますか。

- (1) 毎日… 3歳児クラス：12名 4歳児クラス：8名 5歳児クラス：2名
 (2) 週2～3回…3歳児クラス：0名 4歳児クラス：1名 5歳児クラス：5名
 (3) 週1回… 3歳児クラス：0名 4歳児クラス：1名 5歳児クラス：3名

Q3：Q2で「(1)毎日」を選択した方に伺います。1日に何回程度手遊び歌を行いますか。

- (1) 1回… 3歳児クラス：1名 4歳児クラス：0名 5歳児クラス：0名
 (2) 2回… 3歳児クラス：5名 4歳児クラス：5名 5歳児クラス：1名
 (3) 3回… 3歳児クラス：3名 4歳児クラス：1名 5歳児クラス：1名
 (4) 4回… 3歳児クラス：1名 4歳児クラス：0名 5歳児クラス：0名
 (5) 5回以上… 3歳児クラス：2名 4歳児クラス：0名 5歳児クラス：0名

※留意した回答枠以外で、「日によって」という答えが4歳児クラスにおいて2名。

Q4：どのような時、場面で手遊び歌を行いますか。（複数回答可）

- (1) 朝のお集まりをする前：3歳児クラス：6名 4歳児クラス：7名 5歳児クラス：6名
 (2) 食事をする前：3歳児クラス：3名 4歳児クラス：4名 5歳児クラス：6名
 (3) 食事をした後：3歳児クラス：7名 4歳児クラス：1名 5歳児クラス：0名
 (4) 活動時：3歳児クラス：3名 4歳児クラス：4名 5歳児クラス：5名
 (5) 降園時：3歳児クラス：6名 4歳児クラス：4名 5歳児クラス：4名

(6) その他

3歳児クラス：クラスをまとめた時（2名）、絵本や紙芝居を読む前（2名）、活動の合間（全員がそろうまで等、子どもを待たせることがないようにする時）（2名）、いろいろな場面で（2名）

4歳児クラス：絵本や紙芝居を読む前（3名）、活動の合間（全員がそろうまで等、子どもを待たせることがないようにする時）（4名）、制作前（1名）、お楽しみ（1名）、大事な話の前（1名）、排泄時（1名）

5歳児クラス：活動の合間（全員がそろうまで等、子どもを待たせることがないようにする時）（3名）、絵本や紙芝居を読む前（3名）

Q5：Q4で答えた各場面で何の手遊び歌を行っていますか。

※ 回答者の人数はかっこ書きで示す。かっこ書きがない箇所は各1名である。

(1) 朝のお集まりのとき

3歳児クラス：「山小屋一軒（アンパンマンバージョン）」

4歳児クラス：「卵をボン」「あたま・かた・ひざ・ボン」「はちべえさんとじゅうべえさん」「アンパンマン」「あおむしてたよ」

5歳児クラス：「おはようの歌」「ひげじいさん」

(2) 食事をする前

3歳児クラス：「カレー作り」「お弁当バス」「お弁当箱」

4歳児クラス：「お弁当箱」（3名）「はじまるよ」

5歳児クラス：「ポッポちゃん」（2名）「かわいいひよこ」

(3) 食事をした後

3歳児クラス：「一本指」／4歳児クラス：回答なし／5歳児クラス：回答なし

(4) 活動時

3歳児クラス：「片づけマン」「1丁目のウルトラマン」「三匹の子ぶた」「アンパンマン」

4歳児クラス：「水の中めがね」「野ねずみ」「お寺のおしょうさん」「1と1で」「大きな庭を」「手は頭」

5歳児クラス：「パン屋さん」

(5) 降園時

3歳児クラス：「5匹の子やぎ」、動物が出てくる手遊び歌

4歳児クラス：「はじまるよ」「大阪の歌」「三ツ矢サイダー」、季節にあう手遊び歌

5歳児クラス：「小さな畑」「田舎者」「たいやき君とたこやき君」「奈良の大仏さん」

(6) その他

<絵本や紙芝居を読む前>

3歳児クラス：「ミッキーマウス」（2名）

4歳児クラス：「1と1で」「食いしん坊のゴリラ」「はじまるよ」「グーチョキパーで何作ろう」

5歳児クラス：「はじまるよ」（2名）「忍者」「ろうそくボン」

<活動の合間>

3歳児クラス：回答なし

4歳児クラス：「お寺のおしょうさん」「1と1で」「大きな庭を」

5歳児クラス：「パン屋さん」「おちたおちた」「1本橋」

<いろいろな場面で>

※ 種類がとても多かったため、集計結果で多くあがったもののみ記す。

3歳児クラス：「さかなのひらき」（5名）「ウルトラマン」（3名）「ひげじいさん」（3名）「頭の上でチョン」（3名）「パン屋さん」（3名）「はじまるよ」（2名）

4 歳児クラス：「ラララ」「ハッピーバースデー卵」「納豆」「ピカチュウ」「さかなのひらき」「ひげじいさん」「金づち」「コロコロ卵」

5 歳児クラス：「曲がり角でごっつんこ」「はじまるよ」

※ この他に、「特に特定していない」や「その日の子どもの状況、興味や季節、天気、活動内容によって選ぶ」という答えも複数あった。

Q 6：Q 4 で答えた各場面以外で手遊び歌をどのような時に使いますか。また具体的に何の手遊び歌を使いますか。

※ この設問に対しては具体的にどの手遊び歌を使用しているかの回答が、全体的にあまり得られなかった。そのため、回答にあがった場面でどの手遊び歌が使用されているか分からないものもある。

< 3 歳児クラス >

- ・全員がそろりまでの間 (2 名)：「山小屋一軒」
- ・幼稚園バスを待っている間 (2 名)：「グーチョキパーで何作ろう」
- ・集中させたいとき (2 名)
- ・活動前後でメリハリをつけるとき (1 名)：「ワニのお父さん」「パン屋さん」
- ・大切な話をする前 (1 名)
- ・「使う手遊び歌はその場の雰囲気や子どもの様子にあわせる。」という回答もあった。

< 4 歳児クラス >

- ・全員がそろりまでの間 (3 名)：「あおむしでたよ」「野ねずみ」「拍手」
- ・集中させたいとき (3 名)：「はじまるよ」「アンパンマン」「手は頭」
- ・活動前後でメリハリをつけるとき (2 名)：「パン屋さん」
- ・食事前 (1 名)：「グーチョキパーで何作ろう」
- ・降園時 (1 名)：「グーチョキパーで何作ろう」
- ・「子どもの興味のあるものを選ぶ。」「異年齢児と一緒にいる場では全員が分かるものにする。」という回答もあった。

< 5 歳児クラス >

- ・全員がそろりまでの間 (3 名)
- ・集中させたいとき (3 名)
- ・お楽しみ【お遊戯会などで発表するとき】(3 名)：「鬼のパンツ」「むすんでひらいて」
- ・活動前 (1 名)
- ・「保育者が行うのではなく、子どもにお手本をやらせてもらう。」という回答もあった。また全員がそろりまでの間に行うという回答もあったが、年長児は遊びを行わなくても待つことができるようにするため、待っている間は行わないという回答もあった。

Q 7：なぜ手遊び歌を使用するのですか。

※ 回答者の人数はかっこ書きで示す。かっこ書きがない箇所は各 1 名である。

[3 歳児クラス]

- ・集中させるため (7 名)
- ・間を楽しくするため (4 名)
- ・子どもをひきつけるため (4 名)
- ・盛り上がるから (2 名)
- ・リラックスさせるため (2 名)
- ・子どもが喜ぶから
- ・メリハリをつけるため
- ・ピアノがなくてもどこでもできるから
- ・短くて楽しめるため
- ・バージョンを変えて繰り返し遊ぶことができるから

[4 歳児クラス]

- ・子どもをひきつけるため (5 名)
- ・間を楽しくするため (4 名)
- ・次の活動をスムーズに始める

ため(3名)・子どもを楽しませるため(2名)・集中させるため(2名)・歌が簡単で、年齢が低い子もすぐ覚え、歌う楽しさを感じるきっかけになるから(2名)・全体が1つになって楽しめるため・指の運動になるから・ピアノがなくてもどこでもできるから・落ち着かせるため・集中力、リズム感を養うため・自分の体を使ってイメージを表現することができるから

【5歳児クラス】

・間を楽しくするため(3名)・子どもをひきつけるため(2名)・子どもの手指の機能を促すため(2名)・次の活動の導入として(2名)・落ち着かせるため(2名)・数の概念を教えるため・季節を感じられるようにするため・リズム感を養うため・子どもが楽しめるから・集中させるため・子どもとピアノ以外でリズムを楽しめるため・みんなと同じことをして楽しむという場の共有をするため

Q8:手遊び歌をしている時の子どもたちの様子はどうですか。また、手遊び歌をすることで子どもたちの様子は行なう前とどのように変化しますか。

※ 回答者の人数はかっこ書きで示す。かっこ書きがない箇所は各1名である。

【3歳児クラス】

・楽しくなる(7名)・まとまり、一体感が生まれる(5名)・保育者へ意識が集中する(4名)・自分の意思で参加しようとする(3名)・集中して話がきけるようになる(2名)・工夫やリクエストが生まれる(2名)・覚えると前に立ち見せようとする・元気になる・笑顔になる・行動に弾みがつき言葉や動作が生まれる。

【4歳児クラス】

・ざわつきが止み保育者の方を向く(4名)・楽しくなる(4名)・集中する(3名)・次の活動に期待している様子(2名)・友達と一緒に楽しさを共有する・まとまり、一体感が生まれる・自由遊びのときも口ずさんでいる・身振り、手振りを真似する・笑顔が増える・顔を保育者に向けてくれるので、コミュニケーションがとりやすくなる・指使いが難しいとついでこれない子もいる・やりすぎると飽きる・わけがわからず見ているだけの子もいる

<その他の回答>

・様子は子どもそれぞれ。歌が好きな子はすぐに覚え、楽しむが、興味の持てない子はただ見ているだけ。しかし繰り返し、みんなで楽しく行なっていることでいつか興味の持てなかった子も自然に手が動き、歌い楽しむようになる。

・興味があれば、何度でも行なうことができる。楽しかったという満足感が次の活動をスムーズにする。

【5歳児クラス】

・楽しくなる(3名)・好きな手遊びだと自然に歌声が大きくなる・保育者を集中して見るようになる・まとまり、一体感が生まれる・ざわつきが止み落ち着く・静まり、次の活動に移りやすくなる・真似しようと一生懸命になる・集中力が高まる

<その他の回答>

・関心を示さない子はほとんどいない・知っているものは楽しそうに行なうが、知らないものや難しいものは反応がない、薄い。・先生同士や子どもが知っているメロディーと違うと戸惑う姿がある。・子どもの様子は様々。楽しんでいる子もいれば、興味を持たない子もいる。・手遊び歌の内容によって子どもの様子は変わる。(例:絵本の読み聞かせ前→落ち着くもの、興味をひきたいとき→スピード変化のあるもの)

アンケートの集計は以上である。